



かしま友愛

第34号

2018年1月1日

社会福祉法人
加島友愛会事務局
大阪市淀川区加島1-60-36

☎ 06-6101-6601



レインボープラン 第二期の推進とともに

社会福祉法人加島友愛会

理事長 平田 純博



新年明けましておめでとうございます。皆様にはつつがなく新春をお迎えになられたことと、お慶び申し上げます。

旧年は、加島希望の家・アンドンテ加島・かしま障害者センターを拠点とする障害者福祉事業、加寿苑・リュミール加島などを拠点とする高齢者福祉事業が大過なく順調にかつ発展的に経過しました。

当法人は、地域貢献事業として十三市民病院や淀川区役所などへの障害者・要介護高齢者住民送迎支援事業(無料)を二月にスタートさせ、利用者数千三百五十人(十一月)となり順調に運行しています。

国際貢献事業としては、障害者就労支援事業部がJ-ICの委託によるマレーシアに

加えヨルダンにジョブコーチを講師派遣し、また両国政府の視察団を受け入れてきました。

加えて、介護福祉士の資格取得をめざすベトナム人留学生一人を三月から加寿苑で受け就労・住宅など生活支援をしています。

これらは、サービス利用者とご家族の皆様、地域の皆様、職員と社会福祉事業の仲間の皆様のご支援、ご協力の賜ものと感謝申し上げます。

旧年は、九州北部をはじめ全国に台風・集中豪雨による災害がありました。

一年に優性思想を抱く青年による障害者等四十六人殺傷事件・相模原事件が発生し、障害者福祉に携わる私たちには大変な衝撃でした。しかし昨年も青年による女子高校生などの凄惨な大量殺人が起こり国民全体に大きなショックとなりました。

これらの事件は、これまで私たちが見聞きする貧困や利害が原因で起きた様々な事件をもたらしています。

これまでの支援ご協力を重ねてお願いしまして、新年のご挨拶といたします。

とは大きく異なり理解に苦しむものですが、重大な人権尊重の社会問題と思えます。

国内外の政治・経済の変化とともに、あいついで起つる人権に関する重大な社会問題を考えたとき、新年は、社会が大きく変わるターニングポイントになるかもしれません。

さて、加島友愛会は『レインボープラン』の第一弾として旧加島市営住宅・老人福祉センターハウス跡地にサービス付高齢者向け住宅と職員住宅の建設設計画に取り組み、新年度早々の着工をめざしています。

今後の『レインボープラン』第二期の課題としては、旧加島人権文化センター跡地の活用や新たな敷地の確保に努め、高齢者デイサービスを含む在宅介護サービスの再構築、新たな隣保館事業や銭湯「玉の湯」復活、法人内保育所など検討を進めています。

新年は、『レインボープラン』第二期の推進とともに地域貢献事業、国際協力・交流事業にも力を入れ加島・三津屋地域をはじめとする地域福祉に貢献したいと考えております。

二〇一八年も皆様の変わらぬご支援ご協力を重ねてお願いしまして、新年のご挨拶といたします。

コラム

かしまの光

昨年七月、岡山県と香川県で就労継続支援A型事業所を運営していた一般社団法人と関係企業が、事業所閉鎖に伴つて障害のある約二百八十人を解雇した。六十数名の職員も同時に解雇されたという▼A型サービスの利用者へ支払う給与の原資となる収益事業をおこなわずに、給付費だけを受給する「A型問題」が取り上げられる中、厚生労働省は指定や継続の要件を厳しくする措置を講じた▼問題の本質は、措置をきっかけにしたA型事業所の閉鎖や廃業ではなく、公費に頼ったビジネスモデル形態での事業参入のありかたではないだろうか▼今回の件は報道の情報だけで知りえぬことも多いが、當利目的で福祉の配慮が行き届かなかつた面と、福祉だけを重視して當利面が立ち行かなくなつた両方が、本来めざすべきところから外れてしまつた要因ではないか▼A型事業所は障害福祉サービスと収益事業の両輪を押し進めないと成立しない。両方を担保できる質の高い事業所が増えることを望む。



JICA新プロジェクト

ヨルダン交流



担当者の意気込みが伝わる

済情勢ではあるものの、就労支援の公益性やジョブコーチ支援の方法論については、共有できるものであると感じました。また、十月末にはカウンターパートとして、ヨルダンから労働省職員を中心とした六名の研修員を招き入れ、日本における制度・実践の学習及び、障害者雇用事業所の視察などもおこないました。今後、ヨルダンでは専門性の向上と、システムの確立をめざして取り組まれることで、これらの動向にも期待しています。

加島友愛会では、これまでJICA（国際協力機構）の障害者就労支援に関する研修事業を受託し、マレーシアからの研修員受け入れをおこなってきました。

今年度は新たに、ヨルダン・ハシエミット王国（以下、ヨルダン）でのプロジェクトが動き始めています。八月には、私が短期専門家としてヨルダンを訪問し、現地で就労支援に関する講義や視察をしてきました。中東諸国での資源開発や経済発展の底上げをめざすヨルダンでは、福祉・労働問題が課題として取り上げられ、障害のある方の就労支援も注視されています。日本とは全く異なる産業構造や経



法人役員・スタッフとの記念撮影

最後に、今研修において、協力いただきました関係機関の皆様に御礼を申し上げます。

（専務理事　酒井　大介）

済情勢ではあるものの、就労支援の公益性やジョブコーチ支援の方法論については、共有できるものであると感じました。また、十月末にはカウンターパートとして、ヨルダンから労働省職員を中心とした六名の研修員を招き入れ、日本における制度・実践の学習及び、障害者雇用事業所の視察などもおこないました。今後、ヨルダンでは専門性の向上と、システムの確立をめざして取り組まれることで、これらの動向にも期待しています。

加島友愛会では、これまでJICA（国際協力機構）の障害者就労支援に関する研修事業を受託し、マレーシアからの研修員受け入れをおこなってきました。

今年度は新たに、ヨルダン・ハシエミット王国（以下、ヨルダン）でのプロジェクトが動き始めています。八月には、私が短期専門家としてヨルダンを訪問し、現地で就労支援に関する講義や視察をしてきました。中東諸国での資源開発や経済発展の底上げをめざすヨルダンでは、福祉・労働問題が課題として取

中国南京市の社会福祉施設を訪問して

八月二十九日から九月二日にかけて、本部事務局の谷口事務局長、リュミエール加島の江見施設長と共に、中国南京市の高齢者施設の視察・交流のため訪中しました。中国の福祉を研究されている水野理事（大阪市立大学特任准教授）にも同行していました。

視察先は南京市社会福利服務協会の関係六施設でした。元々中国では儒教思想が生活の基本にあり、親を施設に入所させることには抵抗感が強かつたそうですが、経済的な裕福層を中心に十年程前から施設への入所も徐々に進んできたとのことです。

今回訪問した施設も経済的に余裕がある人を対象に新たな施設を展開しているところが多くありました。また、認知症の方も積極的に受け入れている所もありました。

特徴的だったのは医療と福祉を結合した「療養結合」という形式を導入されていた所が多か

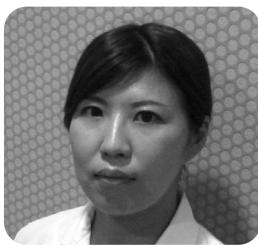
ったことです。今回お世話をなった金康集團というグループがこの形式を先進的に導入されたことで、入所者の方も医療と福祉のサービスを一体的に受けされることで安心感があるとともに、施設経営も大変安定したものがなっているそうです。

また、多くの方から日本の介護や福祉を学びたいとの意見を聞き、今後も交流を更に深めた

（アンダント加島
施設長　宇野　達美）



療養結合形式の社会福祉施設を訪問



アンダンテ加島

管理栄養士

きたがわ のりこ
北川 典子

アンダンテ加島で栄養士として働きだして9年目になりました。私の仕事のやりがいは、食事の後の「おいしかった」です。

毎日の食事で、利用者の方が「おいしいね」と笑顔を見てくれるときはもちろん、食べるスピードが速いとき、食べ残しが少ないと、おいしく食べてもらえてよかったと嬉しくなります。

苦手な食べ物は誰にでもありますから、食事を提供する立場としては苦手な物でも食べてもらいたいと思ってしまいます。そんな時、どんな料理にすれば、どんな味付けにすれば苦手な物をおいしく食べてもらえるのかを考えるのは大変ですが、食べてもらえた時は笑みがこぼれます。

生活の基本である、衣食住の中でも特に楽しみとなる食の部分が、利用者の方にとって、楽しい時間であるように、今後も努力していきたいと思います。



かしま障害者センター 地域生活支援部

世話人(副主任)

こつじ ともぶ
小辻 智信

私にとっての仕事のやりがいは、グループホームの利用者の方と世話人としてホームでの生活を共に過ごす中で、日々の出来事を共感し合い、苦しいことや悲しいことがあったときは共に励まし合い、嬉しいことや楽しいことがあったときは一緒に喜べることです。

皆さん『自立』を目標に頑張って生活をされていまして、日々仕事や作業に取り組まれています。疲れてホームに帰って来ても、掃除や洗濯、食事の手伝いなど、やるべきことはしっかりとやっている姿を見て、私自身も利用者の方から勇気と元気をいただいています。



かしま障害者センター Link

職業指導員

かせ ちほ
加瀬 千穂

私が就労移行支援に携わり、1年半が経ちます。

「就職」という目標に向かって訓練をしている方たちと関わり「この方に今必要な支援は何なのか」を考え、試行錯誤を重ねながら仕事に取り組んでいます。社会人として必要なルールやマナーなどを伝える中で、利用者の方に気づかされることも多く、私自身日々学びになることはかりです。そんな日々の中で、できなかったことができるようになる喜びや達成感を共有できることや、成長される姿をより身近で見られることにやりがいを感じます。

私にとっての仕事のやりがい



加寿苑

支援課長

わたなべ よしのり
渡部 芳徳

加寿苑の渡部と申します。特養では、生活全般に介護が必要な方が多数を占めています。100名の利用者さん各自の生活ニーズに対し、どのように支援するのか各専門職と議論を重ねながら日々案を練っています。

体調を崩されたり、入院されたりすると、ADL（日常生活動作）もその都度変わるため、合わせて介護方法も見直さなければなりません。

その中でも、各専門職の意見を一つ一つ組み合わせていくことで、成果が生まれ達成感にも繋がっています。それらが円滑に行え、各職員がスキルアップできる環境をこれからも提供していきたいと考えております。



リュミエール加島

主任事務員

いちっぽう しょうじ
市坪 正二

この度、11月1日からリュミエール加島の事務職員としてお世話になることになりました。市坪正二と申します。よろしくお願い致します。

「私にとって仕事のやりがいとは…」仕事での関わりがあるあらゆる方々に喜んでいただくため、職務を遂行する事だと考えています。

私はこれまでいろいろな業界を経験しましたが、福祉業界は全くの未経験です。皆様にはご迷惑がかからないよう、専門知識やノウハウを積み重ねるべく、勉強させていただきます。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。



加島希望の家

生活支援員

はまだ けんいち
濱田 健一

私は希望の家に勤めて6年目です。夜間の専門学校時代に始めて希望の家にきて職員の方が利用者さんの生活をよりよくすることを最優先に考えていると感じていました。

実際に働いてみて日々の活動の中で利用者さんの笑顔が見られた時にやりがいを感じます。常にこの方たちにもっと笑顔になってもらいたい、喜びを分かち合いたいと考えています。利用者さんの生活スキルをあげる支援ができたり、やりたいと思ってもらえる後押しができた時は、とても嬉しいです。

日々の業務の中で、どう支援すればいいか悩んだり、落ち込むこともあります。上司が励ましてくれたり、いっしょに考えてくれる同僚の中で自分自身も一步ずつ進めることができていると思います。こうした職場にいることで自分の成長を感じられることも仕事のやりがいです。

いろいろな秋を楽しむ

昨年の秋は、いつもより短いような気もしましたが、いろいろな行事を楽しむことができました。

◇恒例の日帰り旅行は十一月十日に実施し、神戸・どうぶつ王国へ。

バイキングに舌鼓を打ち、皆さんに満足していただけました。



四十人ほどの方がお茶を召し上がられました。

◇また日曜日の午後、月に一度のペースで、向かいのアンダンテ加島の利用者・職員がボランティアに来ててくれ、喫茶を担当していただいている。入所者の皆さんも、いつもどちらがう喫茶の雰囲気を楽しんでいただいている。

今年いろいろな取り組みをしていきたいですね。

◇翌十一日の午後は、ボランターグループの一芸一座の皆さんによる野点の日。春と秋の二回、来ていただいています。

「昨年のリュミエール加島は「地域に開かれた施設をめざす」をテーマに、地域の方に参加いただいたいくつかの取り組みをご紹介します。

昨年二月から淀川区の各地域

でいきいき百歳体操がおこなわ

れています。加島地域は五力所

あり、そのうちの一つとして毎

週金曜日にリュミエール加島で

百歳体操をおこなっています。

運動をされた後も、楽しそうな

話し声が聞こえ、その日の午後

は大変活気のある和やかな雰囲

気に包まれています。場所だけ

の提供ではありますが、施設を

知つていただくためにも大変有

効です。

認知症サポートキャラバン養成講座を初めて地域の方を対象に開講しました。このサポートキャラバンは、認知症の人と家族への応援者である認知症サポーターを養成し、認知症になつても安心して暮らせるまちをめざす取り組みです。講師は認知症実践リーダー研修を修了

したりュミエール加島従業員の谷口がつとめました。

第一回目ということもあり、

百歳体操の参加されている方に

声をかけて、十六名の方に参加

いただきました。今後も第二回、三回と継続していきたいと思いま

す。このように地域の方と触れ合える場面を多く持ち、施設

の入居者の方も、ともに活気あ

る暮らししが実現できるようがんばっていきたいと思います。

(江見)



認知症サポーター養成講座を実施

リュミエール加島

11月10日（金）、秋祭りをおこないました。4年目を迎える利用者の皆さんにも恒例となっていました。今年は「ジュース」「ポップコーン」「フライドポテト」「ゲームコーナー」の4店を企画しました。なるべく多くの利用者さんに模擬店に関わってもらうことを大切に準備を進めました。

当日は秋晴れ。午前中に全員で中庭や食堂の飾りつけ、店ごとに機材を運んで設置しました。ポップや看板の取り付けがはじめると祭りの雰囲気がでてきて利用者さんも盛り上がってきました。開会の時間になると、まずは開



会セレモニーです。利用者さんの代表から「は・じ・め・ま・す」の元気な声があがると、それを合図にお店の前に続々と人だかりができるようになりました。

フライドポテト店は、目の前で揚げ、出来立てのポテトをカップに詰め、提供していました。ポテトが好きな方が多く、会場に入ってきた先にフライドポテト店に集まってこられました。

ポップコーンの店も、お客様がひっきりなしに来店されて販売メンバーは大忙しです。コーンの手渡しや販売スタンプの押印と大

変そうでしたが皆さん頑張っていました。店先からも香ばしい香りが立ちこめて大盛況でした。

ジュース店では4つの飲み物を用意しました。飲みたいものが決まっていて「コーラ！・コーラ！」と言いながら並ばれる方やどちらにするか指を左右に揺らしながら迷われている方もいて楽しそうです。

ゲームコーナーは、今年はペットボトル・ボーリングをおこないました。ストライクがでると周りの方から「オー」「うまい」と歓声が上がり、こちらも楽しんでいただけました。

各店舗の販売メンバーも、これまでの経験や事前の役割分担を細かく決めたこともあり、とてもスムーズに販売することができました。

今回もアンダンテ加島やむつみの利用者さんも参加していただき、とても賑やかな秋祭りができました。利用者さんのいい笑顔と、「楽しかった」「美味しかったわー」と嬉しい言葉をもらい、私もとても楽しい1日となりました。
(藤原)

「秋祭り」

委員会活動を実施



えるよう
な取り組
みにして
いきたい
と考えて
います。
楽しみに
も委員会
の活動が

きく変わったことはまだ少ないですが、少しずつでも良い変化を与え、委員会を設置して良かったと利用者の方に思ってもらいます。

何とか時間を調整したり、個々で話し合って活動を進めています。

アンダンテ加島では、今年度より「余暇・行事・広報・研修」の四つの委員会を設置しました。スタッフ四～六名が集まり、利用者の方の生活が豊かになるように活動を検討しています。なかなか委員会のスタッフ全員が揃うことが難しいのですが、

なるような取り組みにしていくたいと考えています。

余暇委員会では、余暇活動全般・運動について話し合いをしています。これまで、主に館内余暇・余暇活動の参加回数の調整等について話し合いを進めてきました。

館内余暇では、フリータイムにできることを探し、カラオケ余暇を試験的に実施してきました。食堂でカラオケ余暇の準備をしていると、利用者の方もカラオケが始まることを楽しみにしていました。笑顔で集まつて来られます。

今後、館内でのカラオケ余暇を定期的に実施し、利用者の方に楽しんでいただけるように、余暇委員会を中心に取り組んでいきます。

広報委員会では、月に二回ほどですが、ブログで日々のアンダンテの様子を更新しています。また、今年一月には広報誌の第一号を発行する予定ですので、ご期待ください。
(森本)

奈良に行ってきました!!

Link

LinkのOB会では、働く仲間同士で集まって仕事の話をしたり、余暇を充実させたりすることで働き続けられるようサポートすることを目的とし活動しています。

その一大イベントとして、年に1度の日帰り旅行を開催しており、今年は奈良に日帰り旅行に行ってきました！観光バスの中では、自己紹介や久しぶりの仲間や職員との会話で盛り上がっていました。東大寺の大仏殿では、大仏を間近で見て、大きさや歴史の深さに圧倒されたり、奈良公園で鹿と戯れたり、和太鼓の演奏に聞き入ったり、皆さん



それ
ぞ
れ
樂
し
ま
れ
て
い
ま
し
た。

道中

では、久々に会う仲間同士で「職場に新しい人が入ってきて、先輩になったで。」「忙しいときには残業もしてんで。」「お給料が入ったらUSJに行こうな。」などの会話も聞こえてきました。「楽しかった！来てよかったです！」とリフレッシュされた様子で、ご家庭や職場の方へのお土産を手に、「明日からも頑張ろう！」と声を掛けあって帰路につかれていきました。
(柳瀬)

も含めて雨が降ったのは初めてで、屋内での開催となり、どうなるのかと思いましたが、いざ始まってみると不安も吹き飛ぶほどの大盛況となり、また事故などもなく無事終えることができました。

出店では、冷凍庫をご寄付いただき、アイスクリームの提供をおこなうことができました。少し肌寒い気温でしたが、皆さんおいしそうに召し上がってきました。



フリマの中止。急遽の即売会で大盛況

“COCOLO”相談支援センター

COCOLOでは、地域との交流を目的に『よどがわ河川敷フェスティバル』(毎年10月開催)でフリーマーケットを出店していますが、今年は残念ながら台風の



影響で開催中止になってしまいました。暑い季節の頃からコツコツ準備を始め、出店のレイアウトも決め、あとは商品を積み込んで当日を待つだけだったのが、天候不良による中止は非常に残念でした。その代わりに急遽、利用者の皆さんを対象に販売予定だった商品の即売会をおこないました。「実は目を付けていた商品があったので…」「ちょうど食器が欲しいと思っていたところだった」など、皆さん楽しんでいただけた様子でした。地域と交流できる年に一度の大切な機会ですので、どうぞ来年は天候に恵まれ、無事に開催できますように。
(小嶋)

2回目の『秋祭り』

かしま障害者センター

10月21日(土)に昨年度に続き2回目の『秋祭り』をおこないました。今年はあいにくの雨になりましたが、それでも250人もの方にご参加いただきました。

長年おこなっていた夕涼み会



プログラムではおなじみの抽選会やスタッフによる出し物をおこなったほか、ゲストには大阪大学のお祭りダンスサークル『祭楽人』の学生さんと、昨年に引き続き東淀工業高校の軽音部の学生さんにお出演していただきました。ゲストの方々はどちらも会場が一体となるほど盛り上げてくださいました。また出演後に「こんなに盛り上がって嬉しいです、是非また呼んでください！」と気持ちのいい感想をいただきました。

これからも皆さん笑顔で楽しめ、また様々な人と交流できるイベントとしてより良いものにしていきます。
(吉川)

お昼ごはん事情

ル・プラス

今回はル・プラスでのお昼ごはん事情について紹介します。

ル・プラスには厨房設備がないので給食はありませんが、小さな食堂スペースがあり、そこでお昼の食事をしています。小さな食堂で一度にメンバー全員が入れ



ないので、時間をずらして交替しながらのお昼休憩です。

ご自分でお弁当を持って来られる方もいれば、近くのコンビニで好きなものを買って食べる方もいらっしゃいます。また、お弁当業者さんの仕出し弁当を注文できるので、希望する人はそのお弁当を食べています。代金は注文した分だけ、お給料から天引きされる形です。美味しいお昼ごはんを食べて、午後からの作業も頑張っています！

(木村)

団体行動にはない個別活動の魅力

地域生活支援部



加島友愛会が運営するグループホームは全部で8ホームありますが、入居者全員が顔をそろえる機会はほとんどありません。季節の行事や外食などはそれぞれのホームでおこないます。また、生活のリズムが異なる為、一つのホーム内でも休日の活動は人それぞれです。

休日を過ごす際にガイドヘルパーと一緒に出掛ける人もいれば、ホームでゆっくり過ごす人もいます。中には一人で買い物や散歩に出かける人もいます。

映画やショッピング、景色を楽しむ散策を中心に緑地公園や京都の嵐山まで行く人もいます。美術館や博物館での芸術鑑賞、陶芸作品や八つ橋作りなどの体験もの等々、外出先も個人個人の好みにあわせ様々です。

夏から秋にかけては台風が多く、目的地を変更しなければならないようなこともありましたが、次の機会の楽しみとして取っておくと前向きにとらえていました。

計画から変更まで、自由度の高さは団体行動にはない個別活動の魅力だと思います。これからも皆さんが笑顔で楽しめ、また様々な人と交流できるイベントしてより良いものにしていきたいと思います。

(蓬田)

楽しかった運動会

むつみ

11月4日（土）に毎年恒例のむつみ運動会を加島小学校の体育館で実施しました。

初めに開会式で生活介護・就労継続B型それぞれの代表選手（利用者）が選手宣誓をおこないました。

種目は、玉入れ、障害物競争、綱引き、リレー、ダンスでした。今回の障害物競争では「借り物」があり、借り物カードに書いている物（レインコートや帽子等）を身に着けてゴールをするというもので、皆さん順位を競って慌てて身に着けながら走っていました。リレーはスタッフも一緒に本気で走りました。声援も飛び交ってとても盛り上がり、白熱したリレーになりました。

フィナーレでは参加者全員で「恋」と「恋するフォーチュンクッキー」を踊りました。リズムに合わせてダンスをして皆さん楽しそうでした。

運動会では、普段以上に体を動かして楽しめたのではないかと思います。来年も開催したいと思います。
(土屋)

かしま 障害者センター

地域生活支援部

加島友愛会が運営するグループホームは全部で8ホームありますが、入居者全員が顔をそろえる機会はほとんどありません。季節の行事や外食などはそれぞれのホームでおこないます。また、生活のリズムが異なる為、一つのホーム内でも休日の活動は人それぞれです。

休日を過ごす際にガイドヘルパーと一緒に出掛ける人もいれば、ホームでゆっくり過ごす人もいます。中には一人で買い物や散歩に出かける人もいます。

映画やショッピング、景色を楽しむ散策を中心に緑地公園や京都の嵐山まで行く人もいます。美術館や博物館での芸術鑑賞、陶芸作品や八つ橋作りなどの体験もの等々、外出先も個人個人の好みにあわせ様々です。

夏から秋にかけては台風が多く、目的地を変更しなければならないようなこともありましたが、次の機会の楽しみとして取っておくと前向きにとらえていました。

計画から変更まで、自由度の高さは団体行動にはない個別活動の魅力だと思います。これからも皆さんが笑顔で楽しめ、また様々な人と交流できるイベントしてより良いものにしていきたいと思います。

(蓬田)



行き先は加島友愛会（もと加島人権文化センター跡地）を起点に加島・三津屋地域を巡り、十三市民病院および十三駅、淀川区役所です。現在、会費、料金等は徴収せず、無償にて事業提供しています。

本送迎事業は加島・三津屋地域の移動が困難な方（高齢者、障害者等）を会員とし、みどり号、きいろ号の車両一台にて、平日に一日あたり計八便の運行を実施しています。（昨年十一月末時点）

昨年二月、会員数五十八名ではじまつた加島三津屋地域住民送迎事業（以降、送迎事業）は、現在会員数二百一十九名になり、延べ利用者数は千三百名を超えていきます。（昨年十一月末時点）

加島三津屋地域住民送迎事業

添乗ボランティア

厚原 義弘さん インタビュー

たった三分の関わりにやりがいを感じています



一活動をはじめたきっかけは？

添乗ボランティア募集のチラシを二津屋に勤め先のある娘が見つけ、「お父さん、これやってみたら」とすすめられたのがきっかけです。

これまで農業機械の営業職で

全国勤務をし、定年後は山口県で五年間高齢者デイサービスの運転手をしていました。その後、娘たちのいる大阪に転居して、これからも何か福祉に関わる活動をしたいと考えていたところに、ボランティア募集を知り、申し込みました。

一日々の活動内容は？

週三回程度、送迎車に添乗し、

利用者の乗降の補助をしています。車両走行中は利用者さんの安全確認と話し相手をさせていただいている

一活動にやりがいを感じる時は？

活動中、利用者の皆さんには日々「（送迎事業があつて）助かる

送迎車を新調して1年



加寿苑

デイサービスの送迎車が新調され、1年がたちました。

これは、一般社団法人阪神馬主協会の助成を受けて購入できたものです。

以前のワゴン車は特養オープン時から使用しており、点検はまめにおこなっているものの老朽化が進み、乗り心地も良いとはいえない状態でした。

新車購入で、より安全で快適な送迎をさせていただくことができています。

阪神馬主協会の皆様にお礼を申し上げます。

私たちと一緒に働きませんか！

職員
募集

詳しくは法人の
ホームページをご覧ください



<http://www.kashima-yuai.or.jp/>